

ニュースクリップ & 映像教材

■第52回日本賞グランプリ決定

令和7年11月20日（木）WITH HARAJUKU HALL（東京・原宿）において、NHK主催による標記国際コンクールの授賞式が行われた（写真）。グランプリ日本賞の栄に輝いたのは、「夢と運命の境界で エジプト 少女たちの岐路」（エジプト、フランス）。入賞作品の詳細については、下記を参照のこと。

<https://www.nhk.or.jp/jp-prize/index.html>



写真・日本賞授賞式の様子

全国 ICT教育首長協議会情報

■第3回GIGAスクール対応オンライン研修会開催

全国ICT教育首長協議会主催により、標記研修会が開催される。

<日時>令和7年12月19日（金）14:00～16:30

<会場>（株）内田洋行東京ユビキタス協創広場 CANVAS（東京都中央区新川2-4-7）

<対象>自治体・教育委員会、学校関係者。

<内容>講演、先進事例発表、先進ICT教育機器紹介等。要事前申込。定員は、ウェビナー300名。詳細は、本誌49頁を参照のこと。

<問い合わせ先>全国ICT教育首長協議会事務局（一財）日本視聴覚教育協会内 TEL 03-3431-2186

文部科学省情報

■国立教育政策研究所「令和7年度生徒指導研究推進協議会」の動画公開

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究セ

ンターでは、標記協議会の動画を公開している。

<内容>令和7年7月25日（金）オンライン開催による「学習環境（学校風土）研究の知見についてー不登校・いじめ等の生徒指導上の諸課題と学校風土等との関連及び効果的な取組等に関する調査研究」の研究報告やシンポジウムの様子など。視聴は、文部科学省/mextchannelを参照のこと。

<問い合わせ先>国立教育政策研究所

MAIL info@nier.go.jp

■情報モラル教育指導者セミナー「第4回 どうすればいいの？生成AIの上手な使い方がわからない！」

情報モラル教育推進事業事務局主催による標記セミナーがオンラインにより開催される。

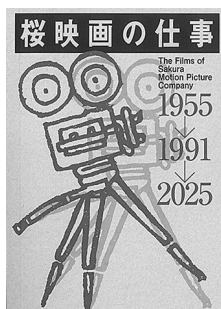
<日時>令和8年1月19日（月）16:00～16:40

<内容>情報モラル教育に関する研究や実践事例を紹介。要事前申込。

<問い合わせ先>文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム情報教育振興室 情報モラル教育推進事業事務局

MAIL johomoral_info@nttts.co.jp

■ ブックレビュー

桜映画の仕事
1955→1991→2025

山田三枝子・村山恒夫
編集
桜映画社 発行
2025年7月1日発行
A5判368ページ
2,500円(税別)

桜映画社が1955年に発足して2025年で70年の歴史を迎えた。これは同社が製作した全作品を年代順に簡潔に紹介し、同社の歴史を顧みた350頁を超える本である。終戦から10年を経た1955(昭和30)年、日本社会は終戦の混乱から新しい社会への構築に向かって行った。この年、全国地域婦人団体連絡協議会の加盟する東京都地域夫人団体連盟をはじめ全国の県婦連幹部ほか46名の有志によってこの会社は設立された。当時の新聞には「母親プロダクションの誕生」と報道された。

それは第1作の『さようなら蚊とはえさん』に見られる通り、あくまで日常生活の身近な視点から映画の主題を取り上げる姿勢で、映

画を見る観客にごく自然に考える思考を促してきた。地味ではあるが、その丹念で冷静な着眼点こそ桜映画の特徴であった。

本書の構成は1992年に刊行した『桜映画社の仕事 1955→1991』の主要作品紹介をそのまま生かした第1部。そして1991年から2025年最新作品までを紹介した第2部である。教育、科学、伝統工芸、社会問題など注目作、話題作として発表した1,431本に及ぶ作品群は壮観であるが1本ごとに簡潔で平明な解説がつき、またスタッフらの記載も充実。桜映画社の全貌を知るには最適の一冊になっている。

本書が刊行された2025年は、紙媒体にとって危機的状態の時代になってしまった。だが桜映画社はこの時代にあえてアナログとも言える紙媒体で自社の作品紹介を実施した。映画は生きている。すなわち映画に描かれた問題意識は、映画が完成後もこの世界に存在し、問題を投げかけている。その意味でこの本は自社が誕生させた映画作品の将来が、いかなる変化をするか不明な媒体ともいえる、その映画を活字言語によって保証、担保する試みとも言えるのではないか。映画というメディアを考える時、同時代人、若い世代に広く推薦したい本である。
(映画評論家 渡部 実)

研究会情報

■東京学芸大学附属学校情報教育部2025年度公開セミナー

東京学芸大学附属学校情報教育部では、「GIGAスクール構想とデジタル学習基盤」と題し、標記公開セミナーをオンラインと対面で開催する。

<日時>令和7年12月14日(日) 13:00~16:30

<会場>東京学芸大学附属竹早中学校(東京都文京区小石川4-2-1)

<内容>附属小・中・高校の実践紹介。定員対面200名。要事前申込。先着申込順。会費無料。

<問い合わせ先>東京学芸大学附属学校情報教育部長 小池翔太 MAIL koikes@u-gakugei.ac.jp

■第7回子どもの読書活動推進に関するシンポジウム開催

絵本図書館ネットワークは、「子どもの読書活動推進のこれまでとこれから」をテーマに標記シンポジウムを会場とオンラインにて開催する。

<日時>令和7年12月20日(土) 13:00~17:00

<会場>東京国際フォーラム会議室棟G602(東京都千代田区丸の内3-5-1)

<対象>高校生以上(子ども同伴可)。

<内容>シンポジウム、講演。定員100名(来場40名、オンライン60名)。要事前申込。参加費無料。

<問い合わせ先>絵本図書館ネットワーク事務局
MAIL info@ehon-lib.net

■シンポジウム「生成AI時代のデジタルアーカイ

ブ 民博・学術知デジタルライブラリ (X-DiPLAS) をバージョンアップする」

国立民族学博物館は、標記シンポジウムをハイブリッド開催する。

<日時>令和7年12月21日(日) 13:00~17:00

<会場>国立民族学博物館第4セミナー室(大阪府吹田市千里万博公園10-1)

<内容>研究発表、パネルディスカッション等。要事前申込。申込締切は、令和7年12月14日(日)。定員対面50名、オンライン250名(先着順)。参加費無料。

<問い合わせ先>国立民族学博物館研究協力課共同利用課 MAIL kikourenkei@minpaku.ac.jp

■公開シンポジウム「分断化する社会の中で対話は可能かーポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」

日本学術会議哲学委員会では、標記をテーマにシンポジウムをハイブリッド開催する。

<日時>令和7年12月21日(日) 13:00~17:00

<会場>立教大学池袋キャンパス11号館地下AB01教室(東京都豊島区西池袋3-34-1)

<内容>講演とパネルディスカッション、哲学カフェ等。要事前申込。小中高生歓迎。参加費無料。

<問い合わせ先>日本宗教研究諸学会連合事務局 MAIL office.jfssr2008(a)gmail.com (a)を@変換。

■「未来の学習コンテンツEX 2025」(冬期)セミナー開催

(公財)学習情報研究センター未来の学習コンテンツEX実行委員会では、「DXの先を見据えたこれからの学び 生成AIの授業活用ー教科学習におけるAI活用の今とこれからー」をテーマに標記セミナーを対面とオンラインにて開催する。

<日時>対面: 令和7年12月25日(木) 13:00~17:00、オンライン: 令和7年12月26日(金) 13:00~17:00

<会場>早稲田大学戸山キャンパス32号館128教室(東京都新宿区戸山1-24-1)

<内容>基調講演、シンポジウム等。要事前申込。対面は参加費(資料費)2,000円。オンラインは無料。定員対面100名、オンライン300名。

<問い合わせ先>未来の学習コンテンツEX実行委員会 TEL 03-6205-4531

コンクール・助成情報

■令和8年度若手研究者に対する教科書研究助成

(公財)教科書研究センターでは、教科書研究者を育成し、もって教科書研究の振興を図ることを目的に標記研究助成先を募集している。

<助成対象>日本及び諸外国における学校等で使用される教科書及びこれに関連する教材についての研究。

<応募資格>日本の大学等高等教育機関、公的研究機関及び教育センター等に所属する若手研究者。

<応募内容>①プロジェクト研究(特定のテーマに関するプロジェクト型研究)、テーマ「デジタル教科書及びデジタル教材の活用に関するもの」研究期間2年間、助成額50万円以内、採択予定2件。②個人研究、テーマ「教科書及びこれに関連する教材についての研究」研究期間1~2年間、助成額25万円以内、採択予定6件等。

<申請書応募締切>令和7年12月15日(月)必着。

<問い合わせ先>(公財)教科書研究センター事務局 TEL 03-5606-4311

学会情報

■日本教育メディア学会「教育メディアとAI: 教員のための実践的セミナー」

日本教育メディア学会では、標記のセミナーをオンラインにて開催する。

<日時>令和7年12月20日(土) 9:30~12:00

<内容>「学校におけるAI活用の考え方」、実践事例、企業からの技術解説等。

<問い合わせ先>日本教育メディア学会事務局 MAIL office☆jaems.jp ☆を@に変更

各地の情報

■Educational Solution Seminar 2025 in 東北

(一社)日本教育情報化振興会では、令和7年度情報教育対応教員研修全国セミナーとして、「教育データ活用で導く未来の学び!~GIGAスクール構想で支える次世代教育サービス~」をテーマに標記セミナーを開催する。

<日時>令和7年12月25日(木) 11:00~17:00

<会場>TKPガーデンシティ仙台(仙台市青葉区

中央1-3-1 AER21F)

<内容>セミナー、展示等。要事前申込。入場無料。

<問い合わせ先>富士電機ITソリューション (株)
内東北セミナー事務局

MAIL x-fsl-tohoku-seminar2025@fujielectric.com

■第1回あいち・なごやインターナショナル・

アニメーション・フィルム・フェスティバル

あいち・なごやインターナショナル・アニメーション・フィルム・フェスティバル (ANIAF) 実行委員会主催による、アニメーションの国際映画祭が開催される。

<日程>令和7年12月12日 (金)～17日 (水)

<会場>ミッドランドスクエアシネマ (名古屋市
中村区名駅4-7-1ミッドランドスクエア商業棟5F)

<内容>アニメーション映画の上映、基調講演、
トークイベント、作品表彰等。

<問い合わせ先>愛知事務局 (株) 新東通信内
TEL 052-951-3875

■エビデンス駆動型教育研究協議会SIG3研究会

(一社) エビデンス駆動型教育研究協議会では、
「教員養成系大学を基軸としたLA実践導入に向けて～いま教師に求められる教育データの見取り～」
をテーマに標記研究会をハイブリッド開催する。

<日時>令和7年12月20日 (土) 13:00～17:00

<会場>大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育
共創館4階402 未来型教室会場 (大阪市天王寺
区南河堀町4-88)

<内容>実践報告、パネルディスカッション等。
要事前申込。申込締切は、令和7年12月19日 (金)
12:00。参加費無料。

<問い合わせ先> (一社) エビデンス駆動型教育
研究協議会HPより「お問い合わせ」

■情報活用能力育成セミナー in高知・香美市

(一社) 日本教育情報化振興会では、令和7年度
情報教育対応教員研修全国セミナーとして、標記
セミナーを開催する。

<日時>令和8年1月7日 (水) 12:30～16:30

<会場>香美市立保健福祉センター香北 (高知県
香美市香北町莚生野336-1)

<内容>基調講演、模擬授業、総括パネルディス
カッション等。定員100名 (先着順)、要事前申込。
参加費無料。

<問い合わせ先>日本教育工学協会HP「お問い合
わせ」

■文部科学省リーディングDXスクール事業

「公開研究発表会」四国中央市OpenSchool

愛媛県四国中央市教育委員会では、「自分の考
えを持ち、自分に表現できる児童・生徒の育成～
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を
通して～」を研究テーマに標記発表会を開催する。
<日時>令和8年1月28日 (水) 10:00～16:30
<会場>しこちゅーホール大ホール (愛媛県四国
中央市妻鳥町1830-1) 他。

<内容>公開授業、ふりかえり、全体会、基調講
演、パネルディスカッション、総評・講演等。要
事前申込。申込締切は、令和7年12月20日 (土)。

<問い合わせ先>愛媛県四国中央市教育委員会学
校政策課 TEL 0896-28-6136

文部科学省選定作品

■10月選定 ☐ DVD ☒ 紙しばい

「シャクシャインとは何者か？」 ☐ 27分

<中学校、社会／高等学校、地理・歴史／社会教
育 (中学校・高等学校生徒)、教養・情操 (歴史・
伝記)>マウンテンゲートプロダクション (株)

「手に魂を込め、歩いてみれば」 ☐ 113分

<社会教育 (高等学校生徒)、国際性 (国際理解・
平和)／青年・成人、国際性 (国際理解・平和)>
ユナイテッドピープル (株)

「ものいうなべ」 ☒ 12枚<社会教育 (幼児・小学
校児童)、教養> (株) 童心社

「ぼくの名前はラワン」 ☐ 90分<一般非劇映画 (高
等学校生徒)・青年・成人>ニューセレクト (株)
映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/

短信

■令和7年秋の叙勲・褒章で元学視連会長の小泉氏が受章

小泉憲也氏 (元日本学校視聴覚教育連盟会長、
元 (財) 日本視聴覚教育協会理事) は、瑞宝双光
章を受章された。

※本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催
者<問い合わせ先>に、ご確認ください。



国立映画アーカイブ コンテンツ紹介5

「映像でみる明治の日本」

国立映画アーカイブ主任研究員 大澤 浄

本サイトの特徴は、名前が示す通り、明治時代の日本を撮影した非常に古い映画作品が見られることである。配信作品は35作品だが、この数は決して多くない。うち29作品は、フランスのリュミエール社が明治30（1897）年から32（1899）年にかけて撮影したと思われる記録映画であり、1960年に幸運にもフランスから国立近代美術館（のちの東京国立近代美術館）に寄贈されたフィルムに由来するものである。つまり、元々日本で保存されていたフィルムは、残りのわずか6作品に過ぎない。

逆に言えば、これら35作品は、時代の荒波の中を奇跡的に生き延びた原初の映画たちであり、資料や情報もあまり残されていない、未開拓で謎めいた映画でもある。

たとえば、リュミエール作品の中でも、とりわけ魅惑的な『日本の俳優：剣による戦い』では、激しい立ち廻りを見せた俳優が最後に勢よく本当の水をかぶる（写真1）が、撮影が終わったと勘違いしたか、カメラに向かって「まだ撮っているの？」というような仕草を見せる。

この俳優が誰か、また、なぜこのような場面が撮影されたか、謎は尽きない。



写真1・『日本の俳優：剣による戦い』（1897年）

『紅葉狩』（1899年）と『小林富次郎葬儀』（1910年）は、フィルムが共に重要文化財に

指定された作品である。『紅葉狩』は、日本人が製作した現存最古の映画であり、当時の名優の踊りを堪能することができるが、近年、本地陽彦氏が調査・指摘したように、撮影の正確な日付は確定していない。『小林富次郎葬儀』は、ライオン創業者である小林富次郎の葬儀を記録した映画であり、鮮明な映像が驚きを与えるが、表通りを千人以上の葬儀参列者が歩いていくという実態や、人々の身なりや表情が、忘れられた文化や風俗を喚起する。

『明治四十五年四月四日 藤田男爵 葬式の実況』（1912年）は、藤田組を興した大阪財界の巨頭・藤田伝三郎の葬儀を記録した映画であるが、映像は傷だらけである（写真2）。



写真2・『明治四十五年四月四日 藤田男爵 葬式の実況』（1912年）

フィルムの至る所に画像部分の剥離や大きな傷が見られ、これらはデジタル技術をもってしても修復不可能である。しかしこうした劣化した作品は、映像の生々しい物質性と歴史性を露わにすることで、我々に歴史資料がただの文字やデータではなく、人が作り、人が守ってきた行為の結晶であることを教えてくれている。

教材は、下記URLにアクセスください。

<https://meiji.filmarchives.jp/>